

狛江市市民活動支援センター

こまえくぼ1234

令和3年度事業報告書

社会福祉法人 狛江市社会福祉協議会

《 目 次 》

1	はじめに 総括	2
2	指定管理業務の実施	
2-1	相談	8
	(1) 一般相談 (2) 専門相談	
2-2	交流・ネットワーク	11
	(1) 団体交流事業 (2) ネットワークの支援	
	(3) 市民活動との協働事業、企業等の社会貢献活動の推進	
2-3	情報の収集と発信	13
	(1) ホームページ等の活用の推進	
	(2) 新しい形での情報発信の推進	
2-4	市民活動の拠点	16
	(1) 団体によるチャレンジ事業	
	(2) 閲覧しやすい資料コーナーの設置	
2-5	その他市民活動の推進に必要な事業	16
	(1) 市民活動参加の機会の充実 (2) 団体向け講座	
	(3) 社会資源活用の推進 (4) 市民活動の側面的支援	
	(5) 近隣及び都域の市民活動センター等との連携	
	(6) 調査・研究 (7) その他	
3	施設管理	25
4	指定管理業務の収支状況	27
5	その他指定者が指示する事項	27
5-1	施設の維持管理	
	(1) 清掃業務 (2) 修繕 (3) 施設点検 (4) その他整備など	
5-2	サービスの維持向上	
	(1) 利用者からの要望 (2) その他	
	資料	
	(1) 主な事業の実施報告書	29

令和3年度の重点取組

◆新しい情報発信の実施

「狛江市市民活動・生活情報誌わっこ」の紙面内に支援センターから情報発信をするスペースを設け、ひとつの情報誌で市民活動に関する情報を入手できるようにします。

情報発信の内容、役割を明確にすることで市民活動に関する情報が多くの市民の皆さんに届くようにしていきます。

◆市民活動団体、事業所との連携による事業実施

市民活動団体の活動を活性化するため団体がイベント開催などにチャレンジできるように取り組みを行っていきます。

市民活動団体によるイベントのほかに、市民活動の潜在的関心層を呼び込むイベント等も支援センター開設5周年の節目にあわせて開催して、市民が支援センターを知り、市民活動に興味を持ち、支援センターを新たに利用する層を見つけていきます。

◆市民活動へのきっかけ作りの実施

これからの新しい活動者となる層（潜在的な活動層）に、市内で行われている市民活動を知ってもらい、支援センターの周知と合わせて、市民活動につながるような取り組みを検討していきます。

◆今後の新たな課題への取り組みの検討

「新しい日常」が定着した社会の中で、市民活動でのオンラインの活用等の新しい取り組みを検討していきます。市民活動に関する調査により今後取り組むべき新課題の見直しや検討していきます。

1 はじめに 総括

令和3年度は、上記重点項目に取り組み市民活動団体、事業所とボランティア活動に興味をもつ個人を繋ぎ、市民活動の活性化を図ることを目標として事業運営をいたしました。

しかし、前年度から続く新型コロナウイルス感染症拡大の影響により臨時休館、入館人数や利用時間の制限をした上での開館などの感染拡大防止の対策を

取りながら粕江市市民活動支援センター（以下「支援センター」という。）の運営となりました。

人と人がふれあうことで繋がる市民活動は、新型コロナウイルス感染症の感染状況にあわせて一律に中止という判断ではなく感染対策を徹底しながら、どのように実施するか難しい判断を求められました。これまで市民活動団体が続けてきた活動が出来ないのではないかと、休止した活動が同じように再開できるのかなどの様々な不安が現在も続いています。

支援センターとしても市民活動と感染予防の両立を大きな課題として様々な形で情報発信をしながら市民活動に関わる団体の皆さんに寄り添い、共に考えながら事業運営を行いました。

○新しい情報発信の実施

■新しい広報紙の発行

「粕江市市民活動・生活情報誌わっこ（以下、「わっこ」という。）」に「広報誌こまえがお」「ボランティア・市民活動情報えくぼ」が統合されました。新たに支援センターの事業、市民活動に関する情報を発信する「支援センター広報誌こまえくぼ1234（以下、「広報誌こまえくぼ」という。）」の発行を令和3年5月から始めました。

市内事業所、施設等約160か所に配架する他に年間11回の発行のうち年4回を拡大号として市内小学校・中学校にも配布をしました。支援センター事業内容を中心とした内容を掲載することで支援センターを広く知っていただくための広報媒体としました。

また、支援センター広報部員が作成する記事について「わっこ」「広報誌こまえくぼ」に掲載するにあたり掲載する記事内容に違いを出しました。団体のイベントに広報部員が参加して体験から得られたことや感じたことの記事を「わっこ」に、団体の設立の想いや今後に向けての想いなどの記事を「広報誌こまえくぼ」に掲載することで記事内容が重ならないように工夫しました。

新しい広報紙をより市民に伝わる内容にしていくためにも支援センターの持つ広報媒体と連動した内容作りなど今後、更なる紙面充実を図っていきます。



■情報発信の場の提供

粕江ラジオ放送株式会社（以下「コマラジ」という。）の毎週金曜日の朝に放送されている「KOMAE AM フライデーアートサーカス」の番組内情報コーナーでの市民活動団体が出演して紹介するコーナーが放送されました。

支援センターは、市民活動団体の番組コーナー出演にあたり、放送で伝える内容のフォーマットや出演日の調整、音源のホームページ掲載等での協力を行ない、市民活動団体がラジオ出演に安心して出演できる体制づくりをコマラジと協力して行ないました。

市内で活動する市民活動団体が自らラジオに出演して団体情報を発信する貴重な場として活用され、狛江市内の市民活動団体が情報発信を出来る場として定着させていくことができました。



○市民活動団体、事業所との連携による事業実施

■支援センター開設5周年記念イベントの開催

開設から5年が経過して市民活動団体や個人、企業、事業所等とのつながりが支援センターとの関係性の中で広がってきました。これからの更なる市民活動を活性化させるために「支援センター開設5周年記念イベント」を市民、市民活動団体、事業所関係者などで組織する実行委員会が中心となり準備、開催をしました。

10月（第1弾）、11月（第2弾）の計4日間にわたり開催したイベントは、支援センター駐輪場での物産展、狛江にゆかりのある著名人によるトークショー、駅前広場での市内小学校・中学校おやじの会を中心に学校の枠を越えたイベント、市内ゆかりのアーティストや団体が出演する音楽ステージ等、イベント全体で延 3,000 名を超える来場者にお越しいただきました。



イベントを通じてより多くの市民の皆さんに支援センターを知っていただくという目的で開催して「初めて支援センターに来た」「何をしているセンターか分かった」などという声をいただき、この出会いをきっかけに活動の輪につながりました。

■市内事業所との連携

市内事業所による社会貢献活動（CSR 活動）の周知をするため、積極的に社会貢献事業所としての登録を進め、年度末には全 39 事業所の登録に至りました。登録事業所による社会貢献活動も行われ体験学習イベントでのタブレットなどのモバイル機器の無償貸与（ドコモショップ狛江店）、障がい福祉施設との安心安全なまちづくりイベントでの花の苗や材料の提供（JA マインズ狛江支店女性部）など支援センター事業への協力をいただきました。また、狛江

市の環境に関する事業とエコロジーシアターに協力している登録事業所（株式会社 Minaos）、教育委員会の実施する職場訪問の動画撮影などに CSR 登録事業所（千代田第一工業株式会社、狛江ラジオ放送株式会社）による協力にも繋がりました。

支援センター開設 5 周年記念イベント開催にあたっては、賛同いただいた多くの市内事業所から支援センター開設 5 周年記念イベント実行委員会に協賛金をいただき、記念イベントの開催に繋がりました。



○市民活動へのきっかけ作りの実施

■体験プログラムの実施

新型コロナウイルス感染症の影響により高齢者施設や保育園に訪問してボランティア体験をする機会、直接会ってボランティアをすることが難しくなりました。感染状況の先行きが不透明である中、オンラインを活用した手話、点字体験プログラムを市民活動団体の協力で実施しました。

オンライン（zoom）を活用して新しい取り組みとして行いましたが、参加者や講師のオンラインに関する慣れや通信環境の課題など新しい課題も見つかりました。

また、JA マインズ狛江支店女性部にご協力をいただき、市内障がい福祉施設と市内環境美化による安心安全なまちづくり体験として「力を合わせて狛江の街を花で盛り上げよう！」を開催しました。JA マインズ狛江支店女性部の皆さんに指導していただきながら障がい福祉施設の利用者が花の苗をプランターに植え、各施設に持ち帰り育てました。お花が育ったプランターは、市内 5ヶ所の郵便局に飾られ、障がい福祉施設の利用者にとってまちづくりに参加している体験となりました。



■狛江消防署との協働事業

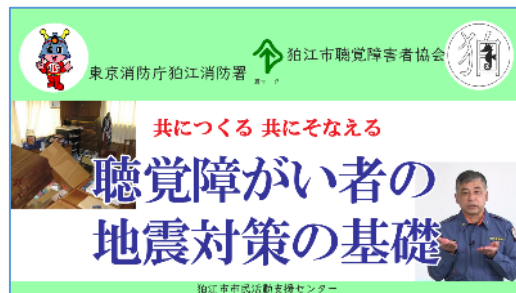
狛江消防署から新型コロナウイルスの感染拡大により地域での防災訓練が減っていることで防災に関する意識低下を危惧しており、市民や市民活動団体と共に何か取り組みを行いたいとの相談があり、この相談をきっかけとして防災イベントの開催、防災動画の作成につながりました。

昨年度、作成した「多摩川水害の語り部」動画を活用した親子での防災イベ

ントとあわせて消防体験を開催することになりました。狛江市安心安全課、社会福祉協議会災害ボランティアセンターとも協力して開催する準備を進めましたが、開催直前に新型コロナウイルス感染症変異株の感染急拡大の影響でイベントを中止することとなりました。



相談の中で防災訓練の減少とともに聴覚障がいのある方に向けて防災に関する情報が届ける機会が多くないことに狛江消防署として不安がある話題が出ました。聴覚障がい者が考える地震対策について当事者団体、手話通訳者、手話サークルから意見をもらい、動画として何を伝えるかについて狛江消防署と協議しました。聴覚障がい当事者と手話関係団体、撮影ボランティア、効果音作成に市内中学生にも関わっていただき、市民と消防署が連携する防災動画が完成しました。



この動画については、市民と消防署が協働して完成させた取り組みとして東京消防庁より高い評価をいただき、関係した市民活動団体、ボランティア個人に「東京消防庁消防総監感謝状」が贈呈されました。

○今後の新たな課題への取り組みの検討

■児童・生徒への日本語支援の開始

市内小学校に通う外国人の児童が日本語の理解が難しく学校生活をする上でコミュニケーションが取れるようになるために日本語を学びたいという相談から児童の日本語支援という新しい課題が発見されました。



狛江市内の小学校でも日本語支援を必要とする外国人児童が10数名程通学しており、こうした外国人児童が一日でも早く学校生活に慣れる環境づくりと日本語の理解が難しく子どもの学校生活について理解に時間がかかっている保護者への支援を進めるために市民活動としての「日本語支援」を展開していくこととなりました。

日本語支援の課題について同じ年代の子を持つ保護者の理解と協力を得ることが大切と考え、狛江市教育委員会にも協力をいただき、支援者募集のチラシ

シを市内小学校に配布しました。結果として多くの支援者があつまり「にほんごしえん」としてグループを作り活動を開始するに至りました。

支援の希望は、増えてきており、中学校からも希望が届いています。今年度は、6組 12名の支援を行っています。活動を実施するにあたり、支援場所の確保や支援する人材の輪を広げていくという課題もあるため、今後、市民活動として出来る部分と公的な支援との連携などの提案を進める必要性も出てきました。

■団体活動の基盤整備

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、団体メンバー間での情報交換や新しい開催方法としてのオンラインの活用等について市民活動団体向けに開催しました。オンラインの活用が進む中で市民活動団体内や市民活動者個人でもパソコンスキルの差があり、全体として取り組むことが難しいという状況が見えてきました。

パソコン機器や通信環境などの物理的な環境と個人のスキルという両方から支援をしていくことが今後の課題となりました。

また、新型コロナウイルス感染症が拡大する影響を受け団体運営が止まっている期間での団体基盤や先行きが不透明になっているという課題があります。団体活動を行う上で団体運営の基盤となる事業計画や事業報告、予算などの整備の必要性を理解してもらい、団体に寄り添いながら支援していくという課題が新たに見つかりました。

2 指定管理業務の実施

2-1 相談

支援センターの中心である相談事業は、相談内容から課題を相談者と共有し、課題解決につながるように相談者に寄り添いながら方向性を見つけ、地域資源につなげていくことを目指して実施しました。

(1) 一般相談

令和3年度の新規相談件数は、昨年度より19件減少の239件でした。

新型コロナウイルス感染症拡大により活動再開後も利用制限の影響もあり、相談は前年度とほぼ同じ件数でした。

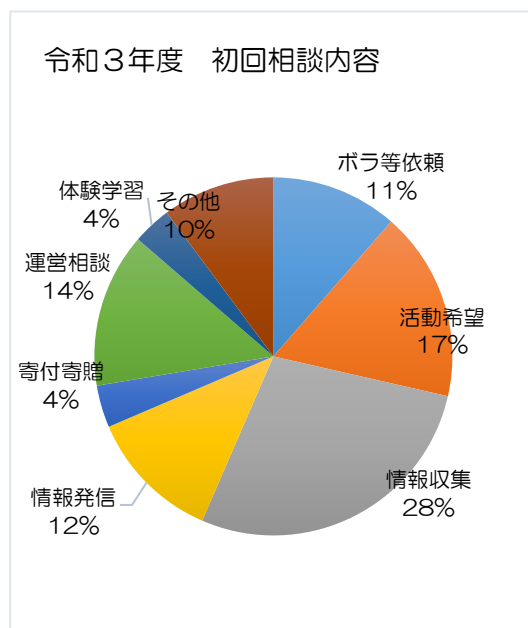
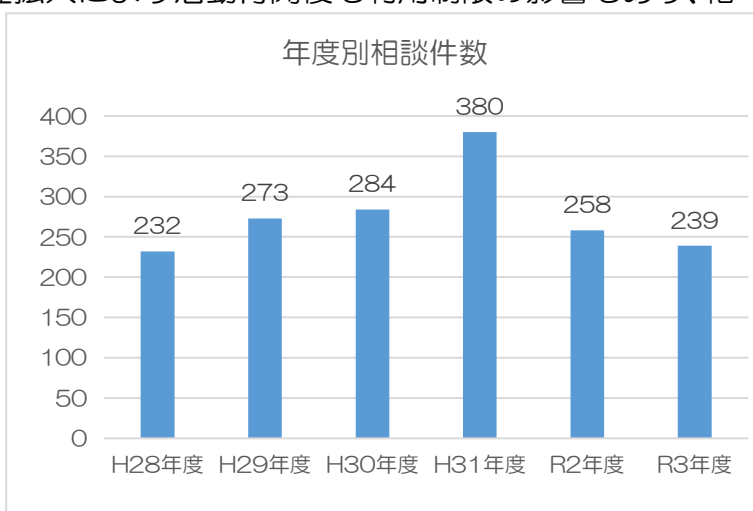
全体的な件数としては、昨年度顕著に多かった電話での相談と来所相談との差はほとんどありませんでした。

個人からの来所相談が多いことから個人での相談は、対面で相談をしたいという様子が見えました。団

体からは電話での相談が多く、新型コロナウイルス感染症対策の中で活動や困りごとのを対面せずに相談できる場所として支援センターが活用されているということも伺えました。

相談内容も前年と傾向的に変わらず、団体も個人についても大きな変化はありませんでした。

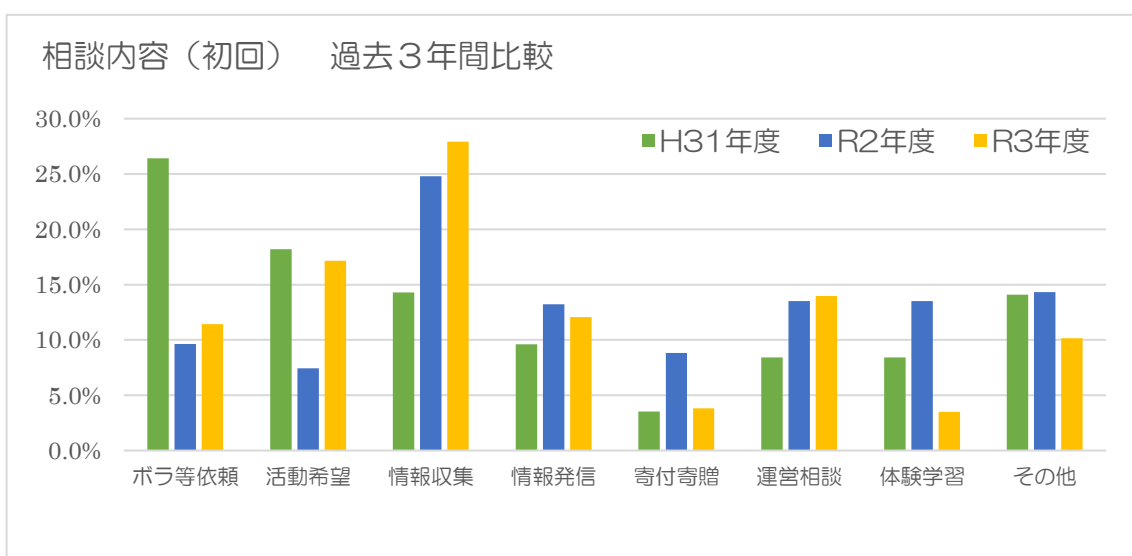
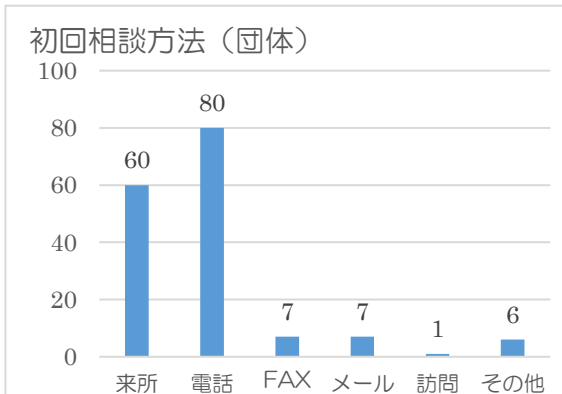
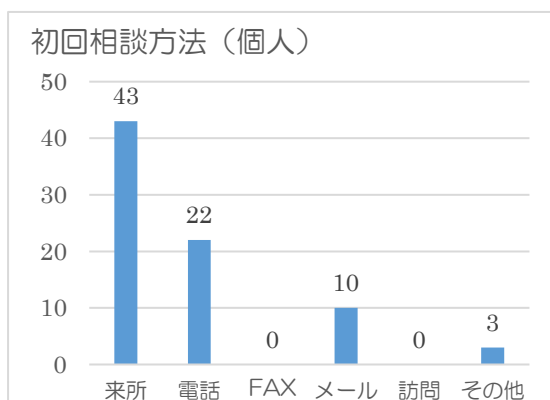
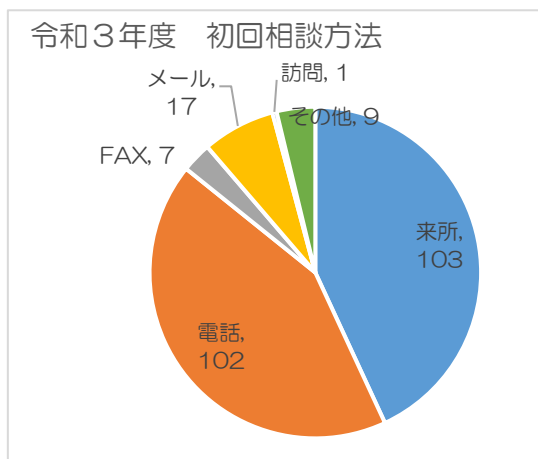
相談内容では、ボランティアや市民活動団体に対する団体や施設などからのボランティア依頼は昨年引き続き減少したままでした。団体や施設では、感染予防策としてボランティアや市民活動団体を受け入れることが難しい状況が続いており、ボランティアや市民活動団体にとっての活動場所が減っているという現状も見えてきました。



市民活動が自粛や中止、延期を余儀なくされる状況でしたが、情報収集や情報発信の相談は、前年度と変わらない件数割合で市民活動に関する情報や団体活動の情報発信についても求めている傾向が見えてきました。

また、支援センターとの相談を経由して立ち上がった団体が10団体ありました。新型コロナウイルス感染症の影響を受けた子どもに関連する分野の団体の立ち上がりが多い傾向がみられました。支援センター登録に合わせて、団体運営の相談、支援センターのホームページやコマラジを使った情報発信や必要な情報の提供など団体活動がつながっていくように寄り添いながらの支援を行いました。

昨年度、活動を開始できなかった新規団体も活動を開始するなど新型コロナウイルス感染症による影響を受けながらも新しい活動も動き始めてきています。



■主な相談事例

相談内容	対応	結果
<p>(任意団体)</p> <p>新型コロナウイルスの感染者が激増する中で活動を継続についてメンバー内で意見が分かれている。</p>	<p>それぞれのメンバーの想いもあるので、各人の意見を聞くことを勧めた。活動を休止する場合でも一旦時期を区切って、再度検討する方法を取ることでメンバーのモチベーション維持にもつながることを説明した。</p>	<p>団体内で意見を確認して感染拡大時期は一旦活動を休止することとしたとのこと。</p>
<p>(市内小学校)</p> <p>障がい者理解の体験学習を予定している。コロナ禍での授業について相談したい。</p>	<p>学校のコロナ禍でのゲストなどの受け入れ態勢について聞き取りを行った。感染対策をした中でセンターとして小学校で実施できる体験学習部会が作成した動画を活用した体験学習について説明を行った。</p>	<p>動画を活用した体験学習についての説明をする中で、講師を呼ばずに動画を活用して先生が指導する方法での体験学習の授業を実施することになった。</p>
<p>(放送事業者)</p> <p>番組コーナーで絵本紹介をしてもらえる団体を紹介してもらいたい。</p>	<p>市内で活動している読み聞かせ団体に出演について打診。</p>	<p>定期的に読み聞かせ団体がコマラジ（「麻宮百のスマイルラジオ」水曜日・昼放送）に出演して絵本を紹介して行くことになった。</p>
<p>(都内社会福祉協議会)</p> <p>飲料メーカーから清涼飲料水1,000ケースの寄贈を受けることになった。寄贈元が子ども食堂関係団体への配布を希望している。狛江市でも活用してもらえないか。</p>	<p>寄贈側の希望や活用方法に関して相談者に確認。 市内子ども食堂ネットワークから各団体に呼びかけを行う。</p>	<p>市内5団体などに配付をすることとして狛江市分として30ケースの寄贈を受けることとした。支援センターが指定場所に寄贈される清涼飲料水を受け取りに行き、センターから各団体に配付することとなった。</p>

(2) 専門相談

市民活動団体の運営や活動に関する悩みや課題を相談できる、専門相談会を
通年で実施しました。今年度は、新型コロナウイルス感染症による影響がある
ため、オンラインで団体と相談員が個別に相談が出来るようにしました。一般
相談での団体設立や運営に関する相談はありましたが、残念ながら市民活動団
体からオンライン相談につながる相談事例は、ありませんでした。

専門相談内容	専門相談員
会計・税金・運営に関する相談	公認会計士・税理士・CFP 内藤 純 氏 (内藤公認会計士事務所)

2-2 交流とネットワーク

(1) 団体交流事業

昨年度、審議会及び狛江市と共催した「第5回狛江☆サミット」で出来た市
民活動団体の分野ごとの出会いを活かし、交流して新しいつながりを作る小規
模な企画を実施しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、開催を
一部見送るなど継続しての実施が難しい状況でした。

■「狛江☆サミット mini」

昨年度の「第5回狛江☆サミット」でのグループディスカッションに参加
した市民活動団体を集め、新型コロナウイルス感染症が拡大する中での活動
状況等の意見交換、情報共有をとおして他団体との繋がりを広げる場として
「狛江☆サミット mini」を開催しました。

感染拡大の影響で参加を辞退される団体もあり、小規模での開催となりま
したが、参加団体間での活動協力のきっかけになるなど団体間のつながりを
作ることができました。

実施日・内容	参加者
令和3年7月29日(木) 「狛江☆サミット mini (子ども分野グループ)」 ・コロナ禍での活動で苦勞したこと、新しく生まれたこと など	2 団体 3 名
令和3年10月20日(水) 「狛江☆サミット mini (福祉分野グループ)」 ・現在の活動状況、コロナによる影響 など	3 団体 4 名
令和3年12月1日(水) 「狛江☆サミット mini (まちづくりグループ)」	※開催中止

■ 狛江市参加と協働市民推進フォーラム「狛江☆サミット」

平成 31 年度より引き続き「参加と協働市民推進フォーラム『第 6 回狛江☆サミット』」を狛江市市民参加と市民協働に関する審議会及び狛江市と共催しました。開催内容についての運営委員による検討チームも狛江市市民参加と市民協働に関する審議会の実行委員会議に参加して一緒に協議を行いました。

今までボランティア・市民活動をしていない層に関心を持ってもらうことをテーマとして「私のスキルを生かせるボランティアって何だろう」を設定、講演後には市民団体の活動事例の紹介を合わせて行う内容で開催準備をすすめましたが、新型コロナウイルス感染症変異株に伴う感染者急拡大、まん延防止重点措置期間となったため、開催が中止となりました。

実施日・内容	参加者
令和 4 年 1 月 23 日（日） 狛江市参加と協働市民フォーラム「第 6 回狛江☆サミット」 ～私のスキルを生かせるボランティアって何だろう～	開催中止

(2) ネットワークの支援

■ ごはんと居場所連絡会

平成 29 年度より地域の居場所（食堂）を開催する市民活動団体が情報交換を行うためにネットワーク化の支援を開始し、翌年度に 4 つの団体による連絡会が発足しました。

令和 3 年度には発足して 5 年目になり、各団体で連絡を取り合える体制も確立され、行政の関係部署と連携が取れるようになりました。新しく設立された子ども食堂団体も加わり、参加団体での情報共有や意見交換が行われました。

■ 視覚障害者関連団体連絡会

平成 30 年度より狛江視覚障害者の会が中心となり、支援団体の交流を目的とした連絡会を開催しています。新型コロナウイルス感染症の影響もあり連絡会の開催は見送られました。

(3) 市民活動との協働事業、企業等の社会貢献活動の推進

■ 企業の社会貢献活動の推進

今年度は、事業所による社会貢献活動（CSR 活動）を周知していくためにホームページへの登録事業所の紹介をあわせて「広報紙こまえくぼ 1234」にも紹介記事を掲載しました。登録事業所による社会貢献活動の事例についてもホームページで紹介しています。

今年度、事業所登録だけでなく「支援センター開設 5 周年記念イベント実行委員会」への協賛、広報紙の配架など支援センター事業への理解をいただき、

協力のつながりが目に見える形で広がってきています。

2-3 情報の収集と発信

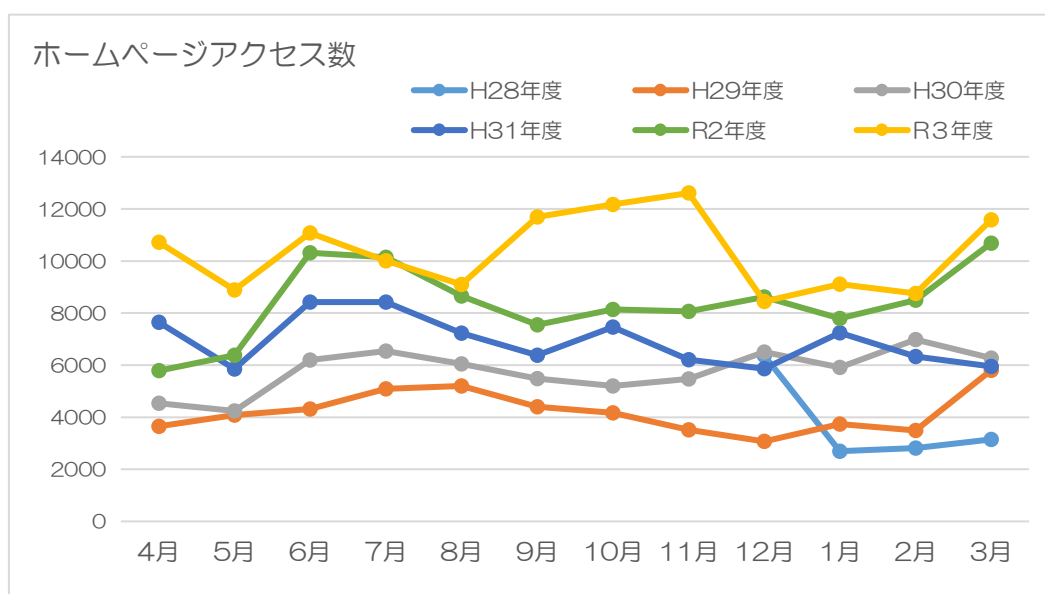
(1) ホームページ等の活用の推進

支援センターのホームページでは、登録団体がそれぞれ専用のページを持ち、活動の様子やお知らせしたいことなどの情報を発信することができます。

新型コロナウイルス感染症の拡大する中、情報発信が出来るホームページでの情報は重要になってきています。

支援センターとしては、ホームページを活用しての情報発信を市民活動団体に促しています。

登録団体が支援センターのホームページを活用して情報発信を不安なく出来るようにホームページ部会や投稿サポーターの協力を得て、ホームページ活用の事例紹介や情報発信に関する勉強会を行いました。



■ホームページ勉強会

支援センターのホームページを有効に活用してもらうために、ホームページ部会や投稿サポーターによるホームページ利用勉強会を行いました。勉強会終了後、情報発信をする団体や情報発信に関する問い合わせが増えました。



ホームページでの団体の情報発信は、新規投稿の頻度が全体へのアクセス数につながるところでもあり、積極的な情報発信が重要になっていきます。

実施日	内容	参加者
令和3年10月14日(木)	利用勉強会 ～こまえくぼのHPであなたの活動を知らせ てみませんか～	9団体9名
令和3年11月5日(木)	フォローアップ勉強会	1団体1名

(2) 新しい形での情報発信の推進

■「狛江市民活動・生活情報誌わっこ」への情報掲載

令和3年度から情報紙「えくぼ」、広報誌「こまえがお」の2つの情報発信については「狛江市民活動・生活情報誌わっこ」に統合されました。

統合にあわせて市民のボランティアからなる広報部会による広報誌「こまえがお」の記事の一部と情報紙「えくぼ」のイベントスケジュール等を「狛江市民活動・生活情報誌わっこ」に掲載しました。

広報部会でテーマや取材先を協議・検討、記事を作成したものが「こまえがお mini」として年4回掲載されました。新しく掲載された情報を見て「切手カフェ」「おりがみサロン」参加や問い合わせもあり、新しい参加者の獲得につながりました。

広報部会による記事掲載については、単なる活動情報の発信ではなく活動している個人の想いを丁寧に拾い上げ、広報部員の想いものせて伝えるという顔の見える広報誌のスタイルを今までと変えないように発行しています。

「わっこ」こまえがお mini 掲載記事内容	
7月1日号	体験入学 日本語教室 「熱心に日本語を学ぶ外国出身者」
10月1日号	活動体験 ごはん+居場所 おかえり 「ごはんを楽しく、みんなで食べる場所づくり」
12月1日号	こまえほんの会 「読み聞かせを通して、自分も元気になる」
1月2月合併号	狛江消防少年団 「全国初の結団から45年、狛江は私たちがまもる」

■「支援センター広報紙こまえくぼ1234」の発行

令和3年5月より新しい広報紙「こまえくぼ1234」を発行しました。この広報紙は、支援センターで行っている事業について紹介するとともに広報部会が作成した「こまえがお」の記事を引き継ぐ形で掲載しました。

創刊号と年4回の拡大号は、市内小学校・中学校の児童・生徒に配布、その他市内の施設や店舗等にも毎号配架にご協力いただき年10回発行しました。

新しい広報紙のスタートということで発信する情報棲み分け等の試行錯誤での発行となりましたが、多くの市民に協力をいただき年間を通して発行することが出来ました。

市民の皆さんによりわかりやすく情報を伝え、広報紙を手にとったことで支援センターについて知り、市民活動への興味や参加につながるように今後も紙面の工夫等をすすめていきます。

「広報紙こまえくぼ 1234」拡大号特集記事内容	
7月1日号	ヘルマンさんの会 「ソーセイジ職人ヘルマン・ウォルシュケさんの歴史をたどる」
10月1日号	ごはん+居場所 おかえり 「食を介して、子どもからおとなまでの居場所づくり」
12月1日号	こまえほんの会 「読み聞かせを通して認知症予防」
1月2月合併号	狛江消防少年団 「結団45周年の誇りを胸に、地域の防火防災に励む」

■コマラジでの情報発信

コマラジでの市民活動団体を紹介する番組コーナーの協力とあわせて、支援センターも出演して事業の紹介やイベントの周知を行ないました。支援センター、専門部会等が出演してラジオでの情報発信を行ないました。

緊急事態宣言で出演が出来ない期間も番組ディレクターの協力により支援センターや団体からの情報を番組内で読んでいただき、支援センターや市民活動団体の情報を発信することが出来ました。

支援センター開設5周年記念イベントでは、番組パートナーの出演、コマラジ番組関連の農産物PRなどの協力も行ないました。

その他、番組パーソナリティによる共催事業としての番組PRを兼ねた展示会も開催しました。番組に出演した市民活動団体のメンバーが展示会に来館するなど新しい情報発信から繋がりや輪が広がってきています。



2-4 市民活動の拠点

(1) 団体によるチャレンジ事業

支援センター登録団体・個人の優先利用として、フリースペースでのイベントと展示の利用を市民活動団体と共催して行いました。

新型コロナウイルス感染症が拡大による影響により中止や人数制限などの影響を受けましたが、よみきかせ関係団体などが感染対策を行いながらイベントを開催しました。

また、CSR登録事業所による展示会も初めて開催されました。

- ・イベント利用： 20回（6団体）
- ・展示利用： 2回（2団体）



(2) 閲覧しやすい資料コーナーの設置

登録団体から発信される情報を多くの市民に見てもらうため、フリースペース内の感染予防対策を踏まえ、情報を手に取りやすい形にレイアウトを工夫しました。

また、玄関前に登録団体が使用できるように設置した屋外掲示板は、各登録団体からの申請により所定のスペースを自らが管理する自主管理の掲示板としての本格運用を開始しました。掲示のルールに沿って登録団体が定期的に掲示物を交換しており、市民の皆さんが掲示板の前で足を止めて情報を見ている姿、掲示を見てイベントや活動に参加するなどの効果につながるようにになりました。



2-5 その他市民活動の推進に必要な事業

(1) 市民活動参加の機会の充実

新型コロナウイルス感染症の感染拡大にともない高齢者施設等や保育園等でのボランティアの受け入れが難しくなっています。受け入れ側の安全と参加者の安全を確保することも困難であるため、新しい形での体験ボランティアを実施しました。

■ボランティア体験プログラムの新規開発

「見えない人の世界を知ろう 狛江の点字体験と作成体験」

視覚障がい者と会うことを通じて、視覚障がい者の生活を知って、参加した自分たちが出来ることは何かを考えてもらうことを目的に開催しました。

体験プログラムは、視覚障がい当事者から日常生活についてお話・参加者より質問を受けて、公共施設での点字・介助などを通して理解を深めていく内容を行ないました。公共施設内で展示がどのような場所で使われているかに気づいたり、点字以外にも視覚障がい者への支援活動を知り、関心をもってもらうことが出来ました。

新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される時期での開催となったため、参加は少なかったですが、次年度の実施に向けて開催方法や広報の方法を検討していくことになりました。

「聞こえない人と zoom でおしゃべりしてみよう」

事前に昨年度作成した「聴覚障がいについていろいろ学ぼう」を事前学習として活用、感染対策として「zoom でおしゃべり」としてオンラインを活用して画面越しでの交流を行いました。

手話通訳者を介しての質問や参加者、当事者共にリモートを活用したはじめての試みだったため、リモート機器や操作に慣れるという課題が残りました。新しい体験プログラムとして今後も継続していきたいと考えています。

■体験学習

幼稚園・保育園、小学校・中学校からの体験学習の依頼に対して、出前講座や体験学習協力を行いました。

新型コロナウイルス感染症の感染予防としてリモートを活用した形式も取り入れました。小学校・中学校の体験学習には、体験学習部会が作成した YouTube 動画を事前学習用として活用して、今後の体験学習の実施方法につながる成果を得ることが出来ました。

体験学習当日にボランティアとしての協力者が参加されるなどの輪が広がってきています。

「幼稚園・保育園等への支援」

市内の6つの保育園で車いす体験と手話体験の依頼がありコーディネートをしました。緊急事態宣言やまん延防止重点措置の関係で開催を見送った保育園もありましたが、新型コロナウイルス感染症が感染拡大する中での開催でしたので手指消毒や機器類の消毒など園児への感染対策を行いながら実施しました。

実施日	団体名	実施内容
令和3年6月25日(金)	いずみ保育園	訪問(車いす体験)
令和3年6月30日(水)	駒井保育園	コーディネート(手話体験)
令和3年7月12日(月)	駒井保育園	訪問(車いす体験)
令和3年7月14日(水)	三島保育園	訪問(車いす体験)
令和3年7月21日(水)	藤塚保育園	コーディネート(手話体験)
令和3年11月15日(月)	藤塚保育園	訪問(車いす体験)
令和3年11月24日(水)	駒井みんなの家保育園	訪問(車いす体験)
令和4年1月19日(水)	駄倉保育園	コーディネート(手話体験)

「小学校・中学校への支援」

市内小学校2校・中学校1校からの授業協力の依頼がありました。

体験学習部会が作成した YouTube 動画を事前に視聴してから体験をする形式で行いました。

講師となる障がい者が学校を訪問して体験授業を実施したほか、講師と教室をオンラインでつなぎ講師が講義後に生徒からの質問も受ける、点字体験で作成した点字を市民活動団体が添削するなど、ふれあっている体験が難しい状況でしたが児童・生徒とつながる形を模索しての実施ができました。



今後も障がい当事者が直接参加して授業協力を行うには、感染症のリスクがあり安全の確保が難しい状況が続くと思われます。体験学習部会が作成した YouTube 動画を活用した授業形式が今年度の取り組みの中から作られました。今後も児童・生徒に自ら考えてもらうことをポイントとして取り組んでいきます。

実施日	学校名	学年		実施内容
令和3年10月6日(水)	第六小学校	4年	視覚障がいの理解	視覚障がい者によるオンライン講義点字体験
令和3年11月10日(水)	第六小学校	4年	視覚障がい者の理解	視覚障がい者によるオンライン講義アイマスク体験
令和3年11月17日(水)	第六小学校	1年	身体障がいの理解	車いす利用者によるオンライン講義車いす体験

令和3年12月15日(水)	第一小学校	4年	聴覚障がいの理解	手話サークルによる体験
令和3年12月16日(木)	第一小学校	4年	視覚障がいの理解	視覚障がい当事者からの講義、アイマスク体験
令和3年12月17日(金)	第一小学校	4年	高齢者の理解	ラヴィーレ狛江 職員による高齢者の生活・車いす説明、車いす体験
令和4年1月20日(木)	第一中学校	1年	視覚障がいの理解	視覚障がい当事者からのオンライン講義、アイマスク体験

■その他の体験学習

体験学習部会では、学校での体験学習だけでなく、地域での体験学習を広げるための企画や仕組みづくりを検討、実施をしています。

前年度から取り組むべき体験学習として「プログラミング体験」と定めて準備、検討等を行いました。

夏休み期間に「はじめてのプログラミング体験」を小学校で行われているプログラミング授業について保護者に理解をしていただく内容を含めて開催しました。参加した児童からは「楽しかった」「もっとタブレットを使ってチャレンジしたい」、保護者からは「学校のプログラミング授業の目的がわかった」「プログラミング的思考について理解が出来た」という意見がありました。

事前の申込が受付開始30分で満員となる企画のため、より多くの子どもに参加してもらいたいと年2回目の開催を予定しましたが、新型コロナウイルス感染症の変異株の拡大により2回目の開催を中止しました。

市民による体験学習として、現在の学校教育が求めている学習の進め方や目指していることについて市民である部会員が理解してイベントを実施することで学校教育の視点を取り入れた内容での開催ができました。

実施日		参加者
令和3年8月7日(土)	はじめてのプログラミング体験 会場：西河原公民館 協力：ドコモショップ狛江店	小学生10名
令和4年2月19日(土)	はじめてのプログラミング体験 会場：西河原公民館 協力：ドコモショップ狛江店	開催中止

■市民活動を始めるきっかけづくり

運営委員をメンバーとする検討チームにて市民活動を始めるきっかけとな

る事業内容を検討、座学の講座よりも市民活動をしている市民の声を伝えることが重要ではないかとの方向に固まりました。市民活動への参加のきっかけとして「自分で出来る」「身近な人の活動を知る」ことを知ってもらうことが重要という意見があがりました。

市民参加と市民協働に関する審議会の実行委員グループと合同で「第6回 狛江☆サミット」で新しい活動層を増やすことを目的とした開催内容の検討、開催に向けての準備を連携して行いました。

(2) 団体向け講座

市民活動団体同士が団体内の課題解決の糸口を見つけるだけでなく、団体同士の情報共有、交換しながら交流を深める機会として講座を実施しています。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症が拡大する中で緊急事態宣言やまん延防止重点措置により、多くの人が集まったのイベントが難しい状況でした。こうした状況により新しい活路が見いだせず活動が休止状態にならざるを得ない団体もある一方でオンラインを活用しての活動も増えてきています。そうしたオンラインを上手に活用している事例をもとにオンラインの活用方法などについて学ぶ講座を開催しました。

オンラインの操作について学び、使い方のフォローアップをしたのちオンラインでの講座を受けるというステップで参加することでオンラインに慣れてもらいました。

使用機器や通信環境に影響される部分やICT（Information and Communication Technology＝情報通信技術）に対する苦手意識が市民活動層にあるため、今後もニーズにあわせて対応していく必要があります。

団体向け講座「市民に届け！工夫しながら届ける私たちの市民活動」

【日時】 第1回：令和3年10月4日（月）14：00～15：00

第2回：令和3年12月10日（金）14：00～15：30

※令和3年11月25日（木） 第1回のフォローアップ

【講師】 熊谷 紀良 氏（東京ボランティア・市民活動センター統括主任）

【参加者】 第1回：2団体2名 第2回：3団体4名

【内容】 オンライン会議ツール zoomの基本操作

会議（ミーティング）以外の使い方

Zoomでできる基本的なミーティング

オンラインツールの活用について など

(3) 社会資源の活用推進

令和2年度までに集めた社会資源（活動場所）の情報を一元化してホームページに掲載しました。

ホームページを見ない層に市民活動団体が活動できる場所に関する情報提供を求めためチラシを作成して、支援センター開設5周年記念イベント来場者や狛江市社会福祉協議会が支援する小地域福祉活動（高齢者交流サロン活動）の参加者に配布しました。市民活動している市民が情報を検索しやすいページ作りを目指すため、運営委員をメンバーとする検討チームで参加での検討を進めました。

（４）市民活動の側面的支援

■保険の加入受付や相談

ボランティア・市民活動を安心して行うための支援としてボランティア保険と行事保険があります。支援センターでは、これらの保険の取扱窓口として保険加入の対応も行いました。

- ・ ボランティア保険加入 1,844 名
- ・ 行事保険加入 114 件（2,792 名）

■備品等の貸出

コロナ禍でアンプ、プロジェクターなどの備品類は、使用後の消毒が出来ない電子機器のため貸出は中止しました。今後は、感染状況や変異株の特性を鑑み、貸出が出来る体制づくりを検討していきます。

■寄付文化の醸成

寄付寄贈についての相談に対しては、寄付を必要としている方へ届くように努め、ホームページに情報を掲載しました。寄贈を求める団体からの情報発信として活用されています。

食品回収に協力しているフードドライブ事業では、支援センターに多くの市民が食品寄贈で来館されています。土・日曜日にも食品寄贈が出来る場所として活用され協力の輪が広がってきています。

■回収活動

使用済み切手や使用済みカード、インクカートリッジなどを回収し、ボランティア市民活動へ還元しています。

新型コロナウイルス感染症の拡大による影響で使用済み切手を整理するボランティア活動である「切手カフェ」は、緊急事態宣言発出中、まん延防止重点措置期間中は、感染状況や変異株の特徴を踏まえて安全確保のために開催を中止といたしました。



使用済み切手で得た収入を地域に還元する仕組みとして3年後の私に手紙を出そうという小学生、中学生を対象とした企画「絵手紙タイムカプセル」を開催しました。当日は、都立狛江高校の学生もボランティアとして参加して楽しく開催でき、地域の中で交流が生まれる取り組みのひとつとして実施することができました。

- ・切手カフェ 毎月2回開催（全7回開催）
※10月～1月のみ開催。
※緊急事態宣言発出中、まん延防止重点措置期間は中止。
- ・使用済みインクカートリッジ 受け入れ可能な市内一部小学校にのみ配布

実施日	参加者
令和3年7月17日（土） 14時～16時30分	「絵手紙タイムカプセル」 会場：中央公民館 7名

(5) 近隣及び都域の市民活動センター等との連携

■近隣5市のボランティアセンター・市民活動支援センターとの連携

北多摩南部ブロック社協5市（府中市、調布市、三鷹市、小金井市、狛江市）のボランティア・市民活動支援センターでは、毎年、広域で取り組む必要のあるテーマについて共催事業を実施しています。

ユースダイアログとして東日本大震災（3.11）についてオンラインで話し合う企画を実施しました



実施日	内容	参加者
令和3年 12月12日（日）	「3.11 ユースダイアログ」 東日本大震災を経験した当事者が自身の経験や感じてきたことを同世代に伝える場として、東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）が開催。 北多摩南部ブロック5市（狛江・調布・三鷹・府中・小金井）に在住・在学の中学生・高校生を対象に開催。 ※調布市をメイン会場としたオンライン（zoom）開催 共催：北多摩南部ブロック社協5市（府中市、調布市、三鷹市、小金井市、狛江市）ボランティア・市民活動支援センター、東京ボランティア・市民活動センター、	全体 26名

■市民学習コーディネーター共同研究事業との連携

東京ボランティア・市民活動センターが、市民が担い手となって子どもたちの市民学習を学校と協働ですすめるための研究事業である「市民学習コーディネーター共同研究事業」に共同研究地区として参加しました。

「ボランタリーフォーラム TOKYO2022」では、支援センターの動画作成に関する取り組みとキーパーソンを見つける過程をパネラーとしてお伝えしました。

■狛江市教育委員会との連携

狛江市がコロナ禍での小学校・中学校での職場体験の代わりとなる「職場体験学習動画」の制作にあたり、動画作成にあたっての準備や映像ボランティア募集などにおいて協力をしました。2社の動画制作にあたっては、支援センターも全面的に協力、撮影先としてCSR登録事業所の紹介、動画完成までの一連の流れを支援しました。

前述の「にほんごしえん」に関しても保護者に情報を届けるため校長会での情報周知やチラシ配布等での協力をいただきました。

(6) 調査・研究

運営委員をメンバーとする検討チームにて調査項目や事業展開について検討、実施をしました。調査については、活動に対する課題や思いを聞く内容で対象団体に郵送、通知をおこない121団体からの回答がありました。今後、調査結果をもとに地域の課題について精査していきます。

調査方法	：	対象団体への郵送及びweb回答フォームの周知
調査対象	：	253団体 ※こまえくぼ登録団体、地域活動団体、web回答団体
回答数	：	121団体
回答率	：	47.8%

(7) その他

■おりがみサロンの開催

おりがみをとおして施設や市民活動の場面でのボランティア活動につながる動きを本格的に実施するため、市民の交流やおりがみボランティアの育成を目的とした「おりがみサロン」を実施しました。しかし、緊急事態宣言発出、まん延防止重点措置により開催が中止となり継続



的な開催が出来ませんでした。

そうした中でしたが「おりがみサロン」参加者からの発案で開催日に参加者が協力して館内に展示する季節の作品を作成することになりました。

また、今後に定期的な開催に向けておりがみサロンの周知も行いました。



3 施設管理

○施設利用状況

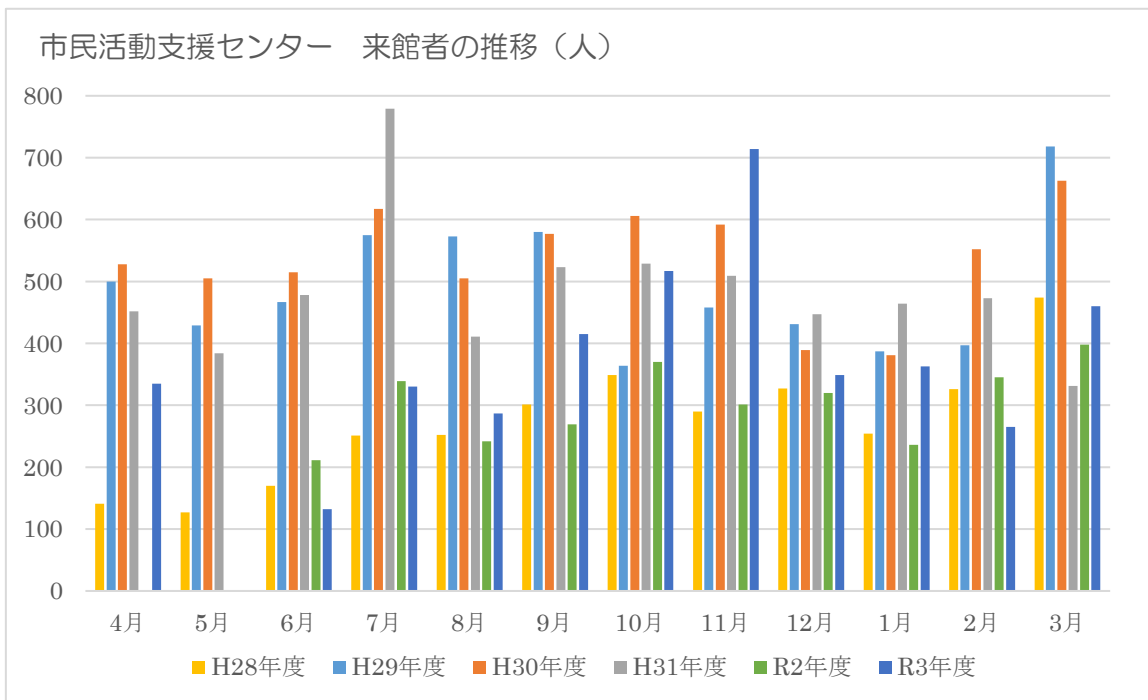
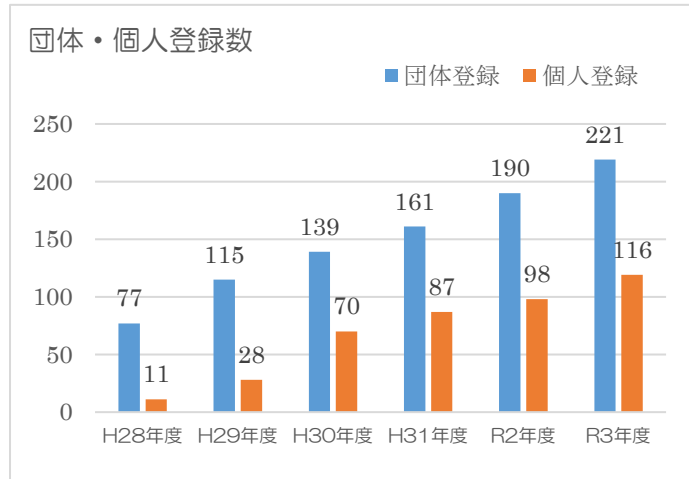
令和3年度の利用者数は 4,167 人と昨年度（3,031 人）を上回る結果となりました。年度当初からの新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休館、再開後も利用制限、緊急事態宣言やまん延防止重点措置など市民活動団体を取り巻く厳しい状況がありました。

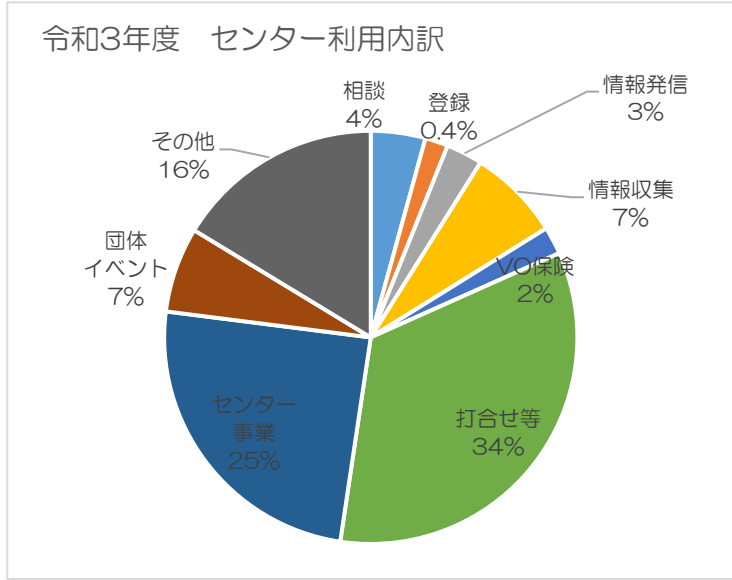
新型コロナウイルス感染症が広がる中でも感染対策を踏まえて市民活動団体が少しずつ動き出してきています。

利用状況をみると、約 34%が打合せなどでの利用で最も多く、センターの事業に関係する方の来館も多くなっています。

例年同様、予約制の貸室ではありませんが、決まった事務所や活動場所がない団体にとっては、コロナ禍でもちょっとした打ち合わせなどで利用がしやすい場所として活用されています。

また、センターの登録は、221 団体、個人 116 名、社会貢献活動をしている事業所（CSR 活動）の登録も増えてきています。





4 指定管理の収支状況

指定管理業務の収支状況（令和3年度）

（単位：千円）

			令和3年度	令和2年度	増減
収入	内訳	狛江市受託金収入	35,370	32,808	2,562
		参加費収入	0	1	△1
		その他収入	149	1,070	△921
		法人からの繰入金	0	0	0
	収入合計		35,519	33,879	1,640
支出	内訳	人件費支出	30,254	27,441	2,813
		事業費等支出	5,265	6,438	△1,173
	支出合計		35,519	33,879	1,640

5 その他指定者が指示する事項

5-1 施設の維持管理

(1) 清掃業務

- ・日常作業で実施(開所日)
- ・クリーンこまめに清掃業務委託（毎週金曜日）

(2) 修繕

- ・特になし

(3) 施設点検（京王設備サービス）

- ・消防設備点検（8月・3月）
- ・空調機法令点検、床清掃（2月）

(4) その他整備など

- ・飛沫防止シートを窓口に設置
- ・フリースペース デスク配置の変更
- ・飛沫対策パーテーション設置
- ・感染対策としての入館人数の制限、利用時間の制限の実施
- ・相談、印刷機使用の事前予約制

- ・ 定時及び来館者使用後の設備のアルコール消毒実施

5-2 サービスの維持向上

(1) 利用者からの要望

- ・ 要望等は、ありませんでした。

(2) その他

- ・ 支援センター職員の体温記録の実施

資 料

主な事業の実施報告書

事業名	団体向け講座「市民に届け！工夫をしながら届ける私たちの市民活動」
目的	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、昨年からの緊急事態宣言やまん延防止法が発出され集まっていたイベントなどが難しくなっている。そのような中で、新しい活路を見出すことができずに活動が休止状態にならざるを得ない団体もあるが、オンラインを活用した活動も増えている。上手に活用している事例をもとに、オンラインの活用方法などについて学ぶ機会とする。
日時	【STEP1】令和3年10月4日（月） 14:00～ 1時間程度 ※STEP1のフォローアップ 11月25日（木）14:00～ 1時間程度 【STEP2】令和3年12月10日（金） 14:00～15:30
会場	【STEP1】こまえくぼフリースペース 【STEP2】オンライン
参加者	【STEP1】2団体2名 【STEP2】3団体4名
実施概要	<p>【STEP1】初心者向け ZOOM の参加方法及び操作方法について [講師] 狛江市市民活動支援センター職員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. そもそも Zoom って？ 2. Zoom アプリをダウンロードする 3. Zoom ミーティングに参加する（招待された Zoom への参加方法/退出方法） 4. Zoom で使える機能について（ミュート・画面共有・チャット） 5. よくあるトラブルへの対処方法 <p>※感染予防策をしたうえで対面式で一つ一つの操作を確認しながら実施をした。</p> <p>【STEP2】団体の活動にあったオンラインとの上手な付き合い方 工夫・情報発信の方法について [講師] 熊谷紀良氏（東京ボランティア・市民活動センター 統括主任）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Zoom の基本操作のおさらい 2. 会議（ミーティング）以外の使い方は？ 3. Zoom でできる基本にミーティング 4. こんな開き方・工夫も 5. オンラインツールをどのように使っていますか <p>※Zoom を使ったオンライン形式で実施した。参加方法はこまえくぼでの参加も可としたが、すべての参加者が自宅からの参加となった。</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> • STEP1は対面式で行ったので、パソコンの画面上のどの部分をどのように操作したらいいのかを直接伝えられたことと、わからないことがあるときにその都度質問に答えながら進めることができた。1回ではわからない、覚えられないという心配が参加者からもあり、後日フォローアップという形で再確認することで、初心者にとってはSTEP2に進みやすかった。 • 参加者自身が分かることと分からないことが明確になり、次のステップへ進んだり他のことも知りたいと思うことができた。

課題

- ホームページ勉強会での団体の参加が多いので、興味を示す団体はいると思うが、オンラインでどんな市民活動ができるのか、どんなことに活用できるのかということをもう少し具体的に伝えると、パソコンが苦手な人も参加するハードルが下がったかもしれない。
- 参加者の習熟度に応じた内容の進め方にしないと進行が難しくなるため、事前アンケートでの習熟度の回り方を工夫する必要があると感じた。
- オンライン開催の場合、それぞれのインターネット環境が違うためフリーズすることがあったりしてしまう。そのため、環境設定は改善することが難しいので、事前に参加者が通信状況をチェックする日にちを設定しておくこととハイブリッドでできる体制は必要。

【STEP1】



【STEP2】

写真



事業名	こまえくぼホームページ利用勉強会 ～こまえくぼのHPであなたの活動を知らせてみませんか～
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ部会と投稿サポーターが主体となって勉強会を企画し、開催できること。そこにやりがいを見出せること。 ・登録の市民団体がホームページを利用して積極的に団体のアピールが出来るようになること。
日時	令和3年10月14日(木) 10:30～12:00
会場	こまえくぼ1234 フリースペース
参加者	(団体)9団体9名、(スタッフ)4名、見学者3名 計16名。
実施概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 目的・主旨説明(5分) 2 参加団体の紹介(5分) 3 活用団体の事例紹介(事例2件のべ50分) 4 質疑応答(20分)
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・午前中の開催ができた。 ・ラジオの音声を張り付ける新しい発信の紹介があり、参加者の中にラジオ出演団体がいたことで、その効果を共有することができた。 ・回を重ねて参加する団体が増え、記事掲載の質問がより具体的になった。 ・コマラジオ出演を希望する団体があった。 ・ホームページ部会が自ら企画し、会議を重ねての説明会ができた。 ・コロナ禍での感染対策ができた。(動線の確保、座席の間隔など)
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答の時間が足りなくなり、実際の操作の仕方などの詳しい説明まですることができなかった。 ・参加団体向けにフォローアップ勉強会を後日開催を予定。

事業名	こまえくぼホームページフォローアップ勉強会
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・過去に開催のホームページ利用勉強会などで参加団体から出た質問や意見を集中して習得することができる勉強会になること。 ・次年度からの定期開催を目指すためのスタッフ側の手順が確認できること。
日時	令和3年12月16日(木) 13:30~15:00
会場	こまえくぼ 1234 フリースペース
参加者	(団体) 1団体1名、(スタッフ) 2名 計3名。
実施概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 目的・主旨説明(5分) 2 画像の取り扱い方法(30分) 3 こまえくぼホームページからの発信(ID登録~記事投稿)(35分) 4 二次元コードの作り方(20分)
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・自力投稿できなかった参加団体が、ID登録から記事の自力投稿ができるようになった。 ・自力投稿できるようになるまでの間で、使用機種や参加者のスキルにスタッフが柔軟に対応ができ、スタッフ及び参加者の喜びにもつながった。 ・勉強の内容や参加者のスキルや使用する機種などについて、今後の開催にむけた問題提起ができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の勉強会で出た質問から勉強の内容や対象者を選択して実施したイベントであったが、団体の参加者のスキルや使用機種に合った内容の企画が必要だった、との振り返りがスタッフから上がった。




事業名	はじめてのプログラミング体験 2021 年夏
目的	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもたちにプログラミングの考え方を知ってもらう。 2 初めて会った子ども同士で協力してプログラミングをする。 3 保護者に体験学習部会を知ってもらう。 4 体験学習部会の部員だけでプログラミングイベントを開催できるようになる。
日時	令和3年8月7日(土) 10:00~11:30
会場	西河原公民館 第2学習室
主催	こまえくぼ1234 体験学習部会
協力	<ul style="list-style-type: none"> ・ドコモショップ 狛江店 ※タブレット10台の無料貸出。 ・コマラジ 8/13(金)、「香月りさのアフタヌーンナビ」番組で、イベント参加者のインタビューを放送。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・小学1年生 2名 2年生 3名 4年生 2名 5年生 1名 6年生 2名 <u>全 10名</u> ・ドコモショップ狛江店 1名(店長) ・体験学習部会部員 6名 ・見学者(保護者) 5名 ・コマラジ関係者 1名 ・こまえくぼ 2名
実施概要	<p>(1) 小学生ペアで他己紹介 ※予めペアを決めておいた</p> <p>(2) おそうじロボをプログラミング 体験学習部員が扮したロボットに、「ゴミを拾ってゴミ箱に捨てさせる」という動作をプログラミングする言葉を考える。 体験学習部会部員が、子ども達が考えた指示をホワイトボードに記載し、その都度ロボットが指示を実行。 ミッション完了後に、間違えた指示について皆で振り返った。</p> <p>(3) 「どうすればうまくできる？」プログラミング ペアで、3つの課題(ハンバーガーを買う、歯を磨く、手を洗う)のアルゴリズムについて考える。</p> <p>(4) タブレット(ipad)を使ってプログラミング 体験学習部会の部員が、プログラミング学習アプリ Scratch の使い方を簡単に説明した後、子ども達が自由にプログラミング。</p> <p>(5) まとめ プログラミング学習の目的について簡単に説明。保護者にも説明。</p>

	(6) アンケート記入
成 果	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもたちにプログラミングの考え方を知ってもらうことができた。 • 体験学習部会部員の声掛けで、初めて会った子ども同士で協力してプログラミングをするサポートができていた。 • 保護者に体験学習部会を知ってもらうことができた。 • 体験学習部会部員だけでプログラミングのイベントを開催できることの確信を得ることができた。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> • 人気イベントであるため、毎回、申込開始から 15 分程度で定員に達してしまい、参加できない子ども達が出てきている。今までは、電話受付のみの先着順としているが、今後の受付については検討の必要がある。 • 当イベントへのニーズがあることは分かっているため、複数回の開催や各学校での開催についても検討の必要がある。 • 保護者のアンケート用紙に「小学 1 年生には難しいかも」というコメントの書き込みがあった。学年を区切ったイベント開催も検討していく。
写 真	

事業名	聞こえない人と Zoom でおしゃべりしてみよう	
目的	<ol style="list-style-type: none"> 1 昨年制作した動画「聴覚障がいについてのいろいろを学ぼう」を活用する。 2 体験者が事前に動画を視聴し、体験当日に聴覚障がい者と交流することで、より深い聴覚障がい者の理解に繋げてもらう。 3 聴覚障がい者を身近に感じてもらう。 4 狛江市で聞こえない人と触れ合える場所を知ってもらう。 	
日時	<p>令和3年 7月26日(月) 15:00~16:00 体験者 2名</p> <p>令和3年 8月29日(日) 15:00~16:00 体験者 2名</p> <p>令和3年 8月30日(月) 10:30~11:15 体験者 1名</p> <p>令和3年 10月 3日(日) 14:30~15:30 体験者 2名</p> <p>令和3年 10月17日(日) 14:30~15:30 体験者 2名</p> <p>令和3年 11月 7日(日) 14:30~15:30 体験者 3名</p> <p>令和3年 11月21日(日) 14:30~15:30 体験者 2名</p>	
Zoom	主催者 こまえくぼ	こまえくぼ
	招待者 聴覚障がい者、手話通訳 体験者	ハンズプレイスカフェにて 自宅にて
主催	<ul style="list-style-type: none"> ・こまえくぼ1234 ・狛江手話サークルてのひら 	
協力	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンズプレイスカフェ 	
参加者	<p>体験者： 小学生 1名</p> <p>中学生 1名</p> <p>高校生 1名</p> <p>保護者 2名</p> <p>ボーイスカウト 9名(ローバー隊、ベンチャー隊)</p> <p>スタッフ：聞こえない人 6人</p> <p>手話通訳 7人</p> <p>こまえくぼ 1人</p>	
実施概要	<ol style="list-style-type: none"> (1) 参加者の自己紹介 (2) 体験者から聞こえない人への質問 (3) 聞こえない人から参加者への質問 (4) 手話体験 <ul style="list-style-type: none"> ・この手話は何かな？ ・手話で自己紹介してみよう (5) 狛江市内で聞こえない人と会える場所の紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・手話サークル 風の部 てのひら 	

	<p>・ハンズプレイスカフェ</p>
<p>成 果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 昨年制作した動画「聴覚障がいについてのいろいろを学ぼう」を活用した。 2 体験者が事前に動画を視聴し、聞こえない人への質問を準備して参加してもらうことができた。体験当日に聴覚障がい者と交流し、沢山の質疑応答により、聴覚障がい者についてより深い理解に繋げてもらうことができた。今回の体験者は皆、聴覚障がい者とお話をしたことがなかったとのこと。ほぼ全員から「様々なことを知れてよかった」という感想があった。 3 聴覚障がい者を身近に感じてもらうことができた。 4 狛江市で聞こえない人と触れ合える場所を知ってもらうことができた。体験終了後、体験者の一人が、ハンズプレイスカフェを訪れ、そこに居た聴覚障がい者の方々とタブレットを使って楽しそうにおしゃべりをしていたとのことである。 5 今回参加した聴覚障がい者の殆どの方が、Zoom 経験がなく、「体験できて良かった」と喜んでいて。今後、電話リレーサービスなどを利用する上でも、リモートに慣れる体験になった。 6 夏休み中の「Zoom でおしゃべり」終了後、スタッフで簡単な振り返りをした。夏休み中の「Zoom でおしゃべり」の際は、手話通訳者の希望で、手話通訳者を画面に映さないようにしたが、進行役が通訳の終わったタイミングが分からず間延びした場面があった。ボーイスカウトの時には、手話通訳も画面に映すようにした結果、体験者にも手話通訳者の役割について知ってもらうことができた。
<p>課 題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 夏休み期間中の体験者（3 ケース）へ、体験当日の最後に「本日の感想をメールで送ってください」とお願いしたのだが、夏休み終了後 2 週間経ってもメールがなかった。そのため、参加者アンケートとして改めてアンケートの提出依頼をしたが返信がなかった。 リモート体験でのアンケート提出の課題が生じた。 ※ボーイスカウトの体験者は、それぞれの体験を体験者皆で共有し、まとめたものを後日こまべくぼに送ってくださった。 2 聴覚障がい者と手話通訳者がハンズプレイスカフェの同じ空間で複数のタブレットを使い Zoom 参加しているため、時々ハウリングが発生した。これを無くす方法として、手話通訳者も自宅から通訳ができるの良いのだが、聴覚障がい者も手話通訳者もリモート通訳に慣れる必要がある。

事業名	見えない人の世界を知ろう、狛江の点字体験と作成体験
目的	<ol style="list-style-type: none"> 1 視覚障がい者との面談を通して、視覚障がい者の生活を知ってもらい、参加した自分たちができることは何かを考えてもらう。 2 公共施設内で点字がどのようなところにあるかを探し、身近なところに点字が利用されていることに気づいてもらう。 3 点字以外にも視覚障がい者への支援活動を知り、興味をもってもらう。
日時	令和3年7月25日(日)・8月18日(水)
会場	こまえくぼ 1234 フリースペース (点字の探索場所：狛江市役所・中央公民館)
参加者	5名(親子と姉妹)
実施概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 視覚障がい者の方(視覚障害者の会 伊藤聡子さん)と日常生活についてのお話・参加者より質問を受け付ける。 2 公共施設へ移動し、点字が使われている場所を見つけてもらう。 3 狛江図書館に訪問し、狛江えほん点訳の会コスモスが作成した点訳付き絵本を参照する。 4 こまえくぼ 1234 に戻り、点字体験を行う。 5 オレンジボールや音訳グループなどの他の視覚障がい者の支援団体について紹介を行う。
成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 視覚障がい者の方とおしゃべりをすることや点字探索によって視覚障がい者の方に興味をもってもらえた。 2 市役所などの移動時、視覚障がい者の方の歩行補助をすることで、視覚障がい者の方への支援方法について気づいてもらえた。
課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 当初予定していた参加者より少なかった。小中学校へのチラシ配布だけでなく、広報活動を工夫が必要と考える。 2 次年度以降、「視覚障がい者の会」が主催していくイベントとしてのつながりが弱かった。次年度からはセンター主催の事業から「視覚障がい者の会」との共催とするため企画段階から内容をつめることが必要と考える。
写真	

事業名	力を合わせて狛江の街を花で盛り上げよう
目的	<ol style="list-style-type: none"> 1 街の美化と防犯について学ぶ。 2 毎日の少しずつが地域に役立つことを体感・体験してもらう。 3 環境をきっかけに市民と事業所が接点を持ち協働して地域貢献の仕組みをつくる 4 世代を問わず、地域のために役に立つ体験ができる
日時	<p><1回目> 令和3年9月17日(金) 10:00~</p> <p><2回目> 令和3年10月29日(金) 10:00~</p>
会場	こまえくぼ 駐輪スペース
参加者	<p>市内障がい支援施設 (パザパ、ワークひなた、こまえ工房、ひかり作業所、ワークイン・メイ)</p>
実施概要	<p><1回目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お花と防犯について (狛江市 安心安全課杉田主幹からの話) ・お花の育て方について学ぼう ・土を作って苗を植えよう <p style="margin-left: 200px;">} JAマイنز女性部と障がい支援事業所との共同作業</p> <p style="margin-left: 40px;">プランターに植えた花は、各事業所に持ち帰り育てていただく</p> <p><2回目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各事業所で育てた花をJAマイنز女性部の皆さんがチェック、追肥を施す ・市内郵便局(5か所)に飾る <p>※当初は小中高生を対象としたものだったが、新型コロナウイルスの感染状況から急遽、障がい支援事業所とのプログラムに変更した。</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・JAマイنز女性部の取り組みとして、障がい支援事業所との関わりは初めてだったが、実際に一緒に行ってみることで始める前の不安はなくなり障がいの理解にもつながることができた。 ・急遽プログラムを変更したため、当初予定していた東京オリンピック、パラリンピックの関係で調布警察署との調整ができなかったが、市内郵便局の協力を得ることができた。 ・障がい支援事業所からの参加者は、率先して活動に参加してJAマイنز女性部と一緒に花の苗を植え替えなど行っていた。アンケートでも、「楽しかった」「達成感があった」「目に見える形のものでわかりやすくてよかった」などの意見も聞くことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・当初の予定通り小中高生対象とする場合、学校の行事予定などを考慮した開催日時にすることと、より興味を持ってもらうための方法も考えないといけない。 ・今回協力のあった郵便局だけでなく、様々な機関・事業所と協力して広がりができるようなプログラムを検討していく。

<1回目>



<2回目>



事業名	狛江市市民活動支援センター開設5周年記念イベント
目的	<ol style="list-style-type: none"> より多くの不特定多数の市民に市民活動支援センターこまえくぼ1234を知ってもらい、活動への関心をもってもらう機会とする。 市民活動推進の担い手である市民、市民団体、事業所が協働する機会とする。 開設5周年を振り返るとともに、今後の市民活動支援センターにおける取組みの推進につなげる機会とする。
日時	令和3年10月24日(日)・30日(土)、11月20日(土)・21日(日)
会場	市民活動支援センター(10月24日・30日・11月20日) えきまえ広場(11月21日)
講師	<ul style="list-style-type: none"> 木村大作さん(映画監督:10月24日) 大西竜平さん(囲碁棋士七段:10月30日) 細野助博さん(美しい多摩川フォーラム会長:11月20日) 石川彌八郎さん(石川酒造株式会社代表取締役社長:11月20日) 鳩貝宜章さん(ホテル観音温泉営業課長:11月20日)
参加者	<p>《第1弾》 10月24日51人　10月30日38人</p> <p>《第2弾》 11月20日約400人　11月21日2,596人　合計約3,000人</p>
実施概要	市民、市民団体、事業所関係者13人からなる実行委員会を令和3年1月に組織し、10月の第1弾では市のゆかりの著名人を活用したイベントを実施した。11月の第2弾では団体同士の連携を活用したイベントを企画し、計4日間のイベントを実施した。
成果	市民、市民団体、事業所関係者13人からなる実行委員会を令和3年1月に組織し、新型コロナウイルスの影響を受けながらも8回の実行委員会を開催して、第1弾、第2弾計4日間のイベントを企画、実施しました。 第1弾(10月24日・30日開催)では89人、第2弾(11月20日・21日開催)では約2,900人、合計で約3,000人の参加者があり、不特定多数の市民を取り込むことができました。 事業実施にむけての広報手段の一つとして、市民活動支援センター近隣のマンションや住宅に実行委員が手分けして、チラシを投函(第1弾約3,000部、第2弾約5,000部)したところ、有効な手段であることが確認できました。
課題	非常に大きな成果を残した事業でした。 この成果を一過性で終わらせることなく、レガシーを活かした取組みを継続していくことが大切と考えています。



木村大作監督トークショー（10月24日）



大西竜平七段トークショー&指導対局（10月30日）



多摩の地酒セミナー・奥下田の魅力セミナー（11月20日）



魅力たっぷり物産展（11月20日）



狛江こどものフレンドパーク&
えくぼコンサートXPoint Source (11月21日)

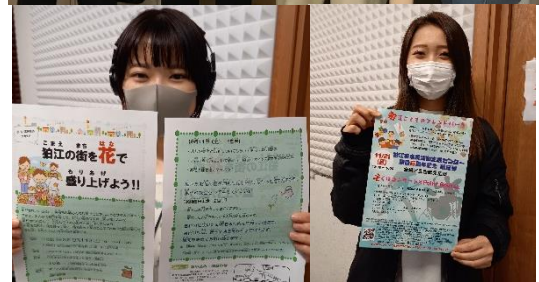
協賛事業所 (敬称略)

- 学校法人秋元学園狛江みずほ幼稚園
- 千代田第一工業(株) • (株)千代田技研
- (株)和泉園
- 藤田不動産(株)
- 絹山不動産(株)
- (株)河邊建装
- (株)FCS
- (株)内田洋行
- 長島理税理士事務所
- (株)トラスト・ウィン
- 城南信用金庫狛江支店
- 司法書士事務所イリス
- いしかわ葬儀社
- アジュリプレイス合同会社
- アクアクラマメトロポリタン
- (株)松坂工務店
- ロイヤルインダストリーズ(株)
- 日東綜業(株)
- (株)トラスト・ワン
- (有)ジュエリー・エル
- 司法書士瀬戸脩事務所
- コミュニティドラッグみどり
- 公益社団法人狛江市シルバー人材センター
- (株)絹山工業所
- 合気道和風塾

コマラジ 出演団体一覧	
令和3年4月9日	狛江市市民活動支援センター
令和3年4月16日	狛江市市民活動支援センター 多摩川水害の語り部
令和3年6月25日	狛江市市民活動支援センター
令和3年7月2日	NPO 法人フードバンク狛江
令和3年7月9日	狛江市市民活動支援センター
令和3年7月16日	早稲田大学 狛江稲門会
令和3年7月23日	保護者の会 おやおや
令和3年7月30日	狛江市戦没者遺族会
令和3年8月6日	狛江市市民活動支援センター開設5周年記念イベント実行委員会
令和3年8月13日	狛江市市民活動支援センター
令和3年8月20日	ヘルマンさんの会
令和3年8月27日	こまえ平和フェスタ実行委員会
令和3年9月3日	こまえチャイルドライン
令和3年9月10日	狛江市市民活動支援センター
令和3年9月24日	狛江市市民活動支援センター
令和3年10月8日	国際ソロプチミスト東京-狛江
令和3年10月15日	狛江市市民活動支援センター体験学習部会
令和3年10月22日	オカリナひまわり
令和3年10月29日	狛江手話ダンスサークル「レインボー&ステラ」
令和3年11月5日	ESA アジア教育支援の会
令和3年11月12日	狛江市市民活動支援センター
令和3年11月19日	NPO 法人フードバンク狛江
令和3年11月26日	ボーイスカウト狛江第1団
令和3年12月3日	タルトタタン
令和3年12月10日	狛江市市民活動支援センター
令和3年12月17日	元気スクールグループ
令和3年12月24日	狛江市市民活動支援センター・狛江消防署
令和4年1月14日	狛江市市民活動支援センター
令和4年1月21日	ハワイアンバンド キパフル
令和4年1月28日	かわせみコンサート実行委員会
令和4年2月4日	タルトタタン
令和4年2月11日	NPO 法人フードバンク狛江
令和4年2月18日	狛江市市民活動支援センター
令和4年2月25日	子ども食堂 ひかりっこ
令和4年3月4日	コンティーゴ あなたといっしょ
令和4年3月11日	国際ソロプチミスト東京-狛江

令和4年3月18日	りぷりんと・狛江 かわせみ
令和4年3月25日	狛江市市民活動支援センター

番組名 : コマラジ「KOMAE AM フライデーアートサーカス」
 番組放送時間 : 毎週金曜日 8:00~11:00
 番組パーソナリティ: 野崎淳之介さん
 番組パートナー : 花咲希実さん・島田優さん
 番組内コーナー : 狛江生活情報コーナー (10:00~10:30)



令和4年3月2日(水)	狛江市市民活動支援センター
-------------	---------------

番組名 : コマラジ「麻宮百のスマイルラジオ」
 番組放送時間 : 水曜日 12:00~14:00
 番組パーソナリティ: 麻宮百さん
 番組内コーナー : こまのいいところ (12:20~12:30)



新型コロナウイルス感染症拡大による事業等への主な影響（抜粋）		
	国・東京都による対応	支援センター対応
4月	まん延防止重点措置 (4/12~24) 緊急事態宣言 (4/25~6/20)	・臨時休館 (4/25~6/20)
5月	緊急事態宣言 (4/25~6/20)	・支援センター臨時休館 (~6/20) ・「広報紙こまえくぼ 1234」創刊号発行
6月	緊急事態宣言 (4/25~6/20) まん延防止重点措置 (6/21~7/11)	・支援センター臨時休館 (~6/20) ・入館人数、利用時間などの制限付き開館 (6/21~10/24) ・主催事業（おりがみサロン・切手カフェ）中止 ・市民開放用パソコンの使用中止 (~12/20)、 物品貸出しの中止（継続中）
7月	まん延防止重点措置 (6/21~7/11) 緊急事態宣言 (7/12~9/30)	・体験ボランティアの開催中止 ・主催事業（おりがみサロン・切手カフェ）中止
8月	緊急事態宣言 (7/12~9/30)	
9月	緊急事態宣言 (7/12~9/30)	・体験ボランティア（小学生対象企画）中止
10月	リバウンド防止措置期間 (10/1~10/24)	・市民活動支援センター事業の再開 ※主催事業（切手カフェ・おりがみサロン・ホームページ利用説明会・市民活動団体向け講座）再開
11月	—	
12月	—	
1月	まん延防止重点措置 (1/21~3/8)	・入館人数、利用時間などの制限付き開館 (1/21~3/21) ・主催事業（おりがみサロン・切手カフェ）中止 ・市民フォーラム「狛江☆サミット」(1/22)、 狛江消防署共催事業「親子で学ぶ防災」中止 (1/30)
2月	まん延防止重点措置 (1/21~3/8)	・主催事業（おりがみサロン・切手カフェ）中止 ・体験学習部会「わらわら」体験の中止 (2/19)
3月	まん延防止重点措置 (1/21~3/21)	・主催事業（おりがみサロン・切手カフェ）中止 ・団体向け講座の中止

